

第5回 室蘭市町内会・自治会活性化推進会議 会議録

1. 日 時

令和5年3月24日（金） 13時30分～15時00分

2. 場 所

室蘭市役所 3階議会第1号会議室

3. 出席者等

(1) 出席委員（13名）

森川座長、田村委員、黒川委員、山田委員、井川委員、三木委員、赤石委員、塩越委員、島委員、佐藤委員、武田委員、田所委員、稲場委員

(2) 欠席委員（8名）

小林委員、坂本（俊夫）委員、福澤委員、日西委員、杉山委員、小島委員、坂本（瑞穂）委員、水落委員、小澤委員

(3) 事務局（5名）

地域生活課 中野課長、青山係長、西村主査
室蘭市町内会連合会事務局 渡部事務局長、北田局員

4. 会議次第

(1) 開会

(2) 配布資料の確認

(3) 議事

① 室蘭市町内会・自治会活性化基本方針（案）について

② 室蘭市町内会・自治会活性化推進会議の継続と今後の活動について

(4) その他

(5) 座長あいさつ

(6) 閉会

5. 議事

① 室蘭市町内会・自治会活性化基本方針（案）について

～事務局から資料に基づき説明～

(座長)

ただ今、基本方針案の説明があったが、前回の会議で骨子案が示され、それに対する意見を盛り込んで修正したものを、事前に皆様方にも送っていたが、まずは、この内容について質問や意見があればお願いしたい。

(A委員)

前回の骨子案では、具体的な取組みに市や町内会などの役割分担は入っていなかったが、基本方針には、役割分担を入れるということか。

(事務局)

前回の骨子案では示していなかったが、今後、地域の方などに分かりやすく説明していくために、役割分担というか、関わっている団体ということで、町内会と書いてあったら、必ず全町内会さんにやってもらうとは思わないと思うので、関連する部分という説明をしていきたいと考えている。

(座長)

この辺は、これから取組みを進めていくうえで大事になってくる。関係団体とどのように話をしていくか、どのように関わってもらうか、市と市町連が連携して説明していきたい。

このような方針ができると、商工会議所にもお願いすることもでてくると思うが、何か気になるところはるか。

(B委員)

基本方針に沿って当然、やっていかなければならないものだと思う。我々自身も企業の立場で、会員の事業者にお知らせしていくことは協力ができる。

ただし、実態として例えばきちんと町内会活動に入っていったって具体的にマンパワーになり得るのかとなると、現役世代はなかなか難しいところがあるので、社員がボランティア活動に取り組めるような社内での制度の整備が必要になってくる。

年に数回でもボランティア休暇を取りながら、PTAや町内会活動など、例えば今まではPTA活動を奥さんに任せていたけれども、今後はお父さんも参加していく、そういう風にしていかないと、なかなか担い手を確保することは出来ないと思っているので、我々自身もそういう取組みをして行かなければならないと感じた。

(座長)

まち「ピカ」パートナーには、どのくらいの企業が参加しているのか。

(C委員)

数までは覚えていないが、たくさんの企業が清掃活動していただいております、イタンキ浜など市民活動団体と一緒に企業がやっているところも多く、企業の力は大きいものがある。

また、就職のために市外から来る人が多いと思うが、そういう方には、企業の方から働きかけていただけると、町内会にしても市民活動にしても、そういう風にしていただけるとありがたいと思う。

一つだけ意見だが、小中学校を通じた啓発、参加促進というのは、必要なことだと思うが、子どもが生まれて小さい時にアパートに住んでいる人が多いと思うので、小学校より下の世代の幼稚園とか保育園とか、そういうところを通じた呼びかけというのはどうか。

(事務局)

会議の中で意見もあったので、小中学校というのが頭にあったが、幼稚園、保育所にも声掛けしていくのは非常に大切なことだと思う。

(C委員)

幼稚園、保育所の以前に、乳幼児検診とかでも、地域で育てていきたいと思いますという雰囲気を出してあげられるとすごく良いと思う。

加入率が低いところは、高齢化率が低く、若い世代がたくさんいるところで、そういうところは、やはり子どもさんもまだ小さく、本格的に活動に参加するのは小学校とかでPTAに入るような方なので、方向性はいいと思うので、そういうものがあるんだよ、というのをすり込ませておいて、小学校でぜひというように出来ないか。

(事務局)

本当に素晴らしい意見だと思うので、更なる取組みの拡大に向けて関係機関にも相談しながら今後検討していく。

(座長)

若い方に町内会に入ってもらえるのは、すごく大事なことで、教育委員会の方からも、新年度からは全校区に出来たコミュニティスクールを通して、町内会との関わりというのを学校の先生方やPTAのお父さんお母さん方に積極的に知ってもらおうと思っている、というような力強い言葉をいただいているので、それらをただお願いしますということではなく、こちらも連携しながら取り組んでいきたい。

もう一つ、この会議の中でも話したが、今月の3月28日に宅建協会に私たちと市で行って、この話を含めてお願いしてこようと思っているが、いろんな方向から若い人、若い女性を含めた方々の町内会参加を促進していきたい。まだ案の段階だが、市町連でも新年度から役員の中に女性理事という形で何人か入ってもらい、そういう方々の意見を聞ける場にしていきたいと考えている。

色々な方向で女性にも町内会に係わって頂き、大きく全市的な立場から発言をしてもらえるような方法を取っていききたいと思っているので、ぜひ期待していただければありがたい。

(D委員)

度々、地域の町内会と学校との連携という言葉が出ているが、白鳥台では、学校運営協議会が発足して会議を2回行っており、その中で、例えば周辺の草刈りとかで学校が困っていることを連合町会にも投げかけてもらえれば、協力したいと申し入れている。

今年の5月中旬に白鳥台桜まつりを実施することになり、連合町会の役員が主体的に実行委員になったわけだが、やはり高齢化でなかなか準備が大変だということで、学校の方に協力要請に行くという話を今日してきたところ、PTAの方からは、もちろん協力させてもらうと言われている。学校が地域に具体的なやってほしいことを言ってくれば、こちらもそれに応える、逆にこちらの方も学校にこういうことをしてほしいので何人くらい手伝ってほしい、というような具体的な話を進めている。本室蘭中学校の校長先生は登別市で勤務していた経験があり、登別市では連合町会と学校の連携が度々行われたということで、校長も地域との連携活動については非常に理解があるので、今後、学校を核とした地域との交流が広がっていくと思う。

あと一つ、今、C委員が言われた幼稚園、保育所の保護者に対する働きかけだが、うちの町内会のことを言わせてもらおうと、コロナで3年間やめていたが、うちの町内会の夏祭りには、どこの町内会からでも来てくださいと行事に呼んでいる。その中に保育所、幼稚園の子たちも集まってくれており、町内会に触れ合う活動をしている。

その結果、うちの町内会の77歳の総務部長は、体調が悪くて今年度で役員を辞めたいとなったが、その後継として50歳の現役で働いている男性が総務部長を引き受けてくれるという風になり、これも画期的なことではないかと思う。それにはやはり町内会が元気よく活動をしていれば、何か芽が出てくるという感じを受けている。

(座長)

啓発といえば、先般、E委員の声かけにより、市町連の事務局長がFMびゅうーに出演し、市町連や町内会の大切さをPRさせていただきありがとうございました。

広報課でも色々に関心を持っていただき広報で何回か出していたが、市によっては、「町内会だより」のような形で毎月出しているところもあると聞いているので、市町連の要望としても何年か前から話をしており、よろしく願いできればと思っている。

(F委員)

市の広報紙には、町内会加入促進月間に合わせて毎年3月号にPRを掲載しており、これからも続けていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

(G委員)

先ほどの話で、現役世代の方が総務部長になられるとのことだが、どこの町内会にも担い手不足という問題があると思うが、私も絵鞆町会で役員をやっているが、現役世代で町内会の役員になった人に集まってもらい、どのようにして活動に参加できているのか情報提供していただく場を持っていただきたいと思った。

(座長)

実際に実践的にやっている人たちの話を聞くのは大事なこと。

昨年、市町連では若い方や女性の方の活動の実践例を何点か出していただき、参加した町内会の方たちは、勉強になったという話をしていた。

今、G委員が言われたように若い方の活動の実践例を何らかの機会に発表するとか懇談する機会があってもいいと思うので、今後の宿題にしたい。

また、この中で町内会の条例が付け加えられているが、町内会の加入促進条例は、市町連の大きな課題となっており、前々回話したが札幌市が条例を作って、NHKや民間のテレビ局、新聞等の報道機関でも取り上げられており、私の知り合いも、先日、札幌でシンポジウムがあって200人から300人の参加者があり、条例の効果がこれから出てくるので、室蘭市でも取り組んだらどうかというアドバイスもいただいた。

札幌市も新年度に向けて条例をいかに活用していくかという中で、広報活動や実際に予算をつけて市全体が絵に描いた餅で終わらないような活動を進めているので、室蘭も良いところは見習って、今回、アンケートとか色々な話があるが、基本方針の中で真剣に取り組んでいただければありがたい。

アンケートを実施するというが、どのような形のことを考えているのか。

(事務局)

この会議でも質問があったが、町内会に加入していない人の意見というのは、皆さんも大変関心を持っていただいております、他市の事例を紹介したが、生の市民の声というのは、こちらもぜひ聞く機会を設けたいと思っているので、例えば無作為に何百人、何千人か抽出して、町内会に入っている人、入っていない人、全て対象して、入っていない人は何で入っていないのか、どうすればいいのか、というような項目を設けたアンケートをやっていきたく考えている。

(H委員)

学校を巻き込んで先生たちに協力してもらって子どもや保護者を取り込むという話で、そういうところもあったのか今まで考えてなかったもので、確かに同じものでも、町内会の回覧はあまり見ないが学校から子どもが持ってきたものは絶対読むと思って考えていた。

うちの町内会が高齢者が多く、昨年からは防災に真剣に取り組まなければいけないと思い、防災組織を新たに作った。今までは、確かに市の方に名簿を出していたが、それは役員の名簿を提出したくらいで全然役に立ってなく、自分がそこに入っているか入っていないかも分からないような状態だったが、ちゃんと作ろうということで作った。

うちの地区は、防災に興味がない人がほとんどで、水害に関係ある地区でもないし、一部、天神トンネルのあたりで土砂崩れの影響あるという感じなので、防災には興味もない、心配ないというか、それでも絶対命を守る、安全面でも絶対必要なことだと思って防災組織を作った。

その中で防災に興味がないせいか、一人住まいのお年寄りでも、何か起きてもうちはいいです、絶対入ってこないでくださいとか、他人に入られるのは嫌ですとか、崖崩れになって歩けなくなったらどうすると言っても、いいんですここにいますという、そういう頑固なお年寄りがいっぱいいて、娘や息子も近くにおらず、じゃあどうするのと言っても、今まで60年、70年暮らしてきて一度もそういうことはないからと、それで終わってしまっていた。そういう人たちをどうするかが今の最大の課題。

冬休みに子供たちと仲良くなるために、小さな雪だるま作りのイベントを開いたところ、何人かの人が集まってきてくれて、その時の子供たちの会話の中に、あそこのおばあちゃんは毎日手を振ってるよねとか、あそこのおじいちゃんはいつも草取りしてるけど、この1週間くらい草取りしてなかったんだよねとか、そんな会話でいっぱいだった。

それは全部小学校低学年の会話で、あそこのおじいちゃん家のスコップ壊れたまんま使ってるさとか、草刈りのカマも柄のところがなくて刃だけで使ってるさとか、そういう会話で本当にいっぱいなんですよね。だから小学校をコミュニティ化してもっと仲良くなる、小学校も色々な地区から集まっているので同一ではないが、もう少し目線を現実化してお子さんの話を聞いてみたらすごくよくわかって、私たちは、頑固おじいさん、頑固おばあさんの地区だと思っけていても、意外と子どもには優しく、そういう情報が入るってくる。

だから小学校の組織を活用するのは、もしかしたらすごく大事なことなんじゃないかと思って聞いていた。

(座長)

H委員の話は、まさに町内会とか地域の原点であり、それを復活しなければ地域崩壊とか、室蘭市は人口減少の中で意外と殺伐としたところもあるので、こういう地域の触れ合いというものが大事で、この中で話している5割位がそれに係わってくる。

町内会に入る入らない以前の問題で、みんなで助け合っていく世の中が大事ではないかと思う。

防災対策課のI委員もいるので意見を伺いたいが、今、我々蘭西七町が考えているのは、町内会活動というよりも、防災の方から対応していかなければならない。

災害でこの地域に3メートルの津波が来た時に、命を落とす人が何人もでる可能性があるが、ただ1人も死者を出さない、被害者を出さないといったとき、普段の付き合いの中で自分で何ができるのか、近所で何ができるのか、町内会で何ができるのか、ということをしていかないと。

先ほど話が出たが、弱者でもある高齢者が構わないでくれと、俺の命は俺が守るから人様の世話にはならないということだが、果たしてそれでいいのかという話も出てくると思う。

やはり近所付き合いであり、その原点を見直していかないで町内会といっても、入る人や係わる人は少ないと思うので、その辺から話し合っていかなければならない。

今の話で、弱者が構わないでくれということだが、これは室蘭市としてもほおっておけないし、全市的な要支援者名簿を作成して対策を講じようとしているので、それについて話していただきたい。

(I委員)

高齢者の方を含め、防災に興味を持っていないと、いくら防災防災と言っても聞いてもらえないのが現状である。

いざ災害が起きたときには、どうにかして支援していかなければいけないということで、今、地域と協力しながら取り組んでいるが、その前に私が思っているのは、防災に興味がない方にどうやって少しでも聞いてもらえるかということ。どこかの大学の先生の話では、津波の避難のときに、高齢者の方から「やはり俺は逃げない」と言われることがあるが、ただ、子供に言われたら言うことを聞くという話があった。まずは、防災で危ないということより、先ほど話があったように、例えば小学生とかと交流できるようなイベントの中で、うまく地域の中で話しをできるような感じにもって行って、そこに少し防災の視点でこういうのがあるということをしつづつやっていく必要がある。

防災の取組を全面に出して進めるというよりは、地域のいろいろな集まりやイベントの中に、防災の取組を入れて少しずつ情報を出して知っていただく、という取組をやっていけないと、入口で壁を作られるとなかなか進まない。

(座長)

こういう基本方針もできたので、実際にこれを実現化していかなければ、絵に描いた餅というか、出来たらそれが終わりとなってしまいますので、何とかしてこういう形のを、町内会の活性化とか地域コミュニティのために活用できるような方法を講じてもらえればと思っている。

(J委員)

私自身、新年度は役員を交代したいと思っているが、いるんでしょうけど、やはり情報がみんなに共有しないというか、若い人は割と仕事や子どもと親の世話なんかもあって。

私は、動けるからということで組織の中で色々やってきて、出来ないことは出来ないんだから、出来ることだけやりましょうと協力してきた。気楽に、初めてするんだから失敗は当たり前だという意識を持ってもらえれば。

女性と比べて男性は、職場の中や町内会の方でも経験があるので、そういうところを経験者がアドバイスとか、今までやっていて不都合や変えた方がいいと思うものは、どんどん変えて少なくしていかないと大変だと思う。

町内会の資料や行事なんかでも、事務局が押さえていければいいことで、一般の会員は知らなくてもいいこともある。

色々な場面で、パソコンに入っている資料をそのまま印刷して配布するのは無駄なこともあるので、気がついたところは減らしていく、という風になると女性も割と参加しやすい。

女性を入れていくなら、少し無駄を減らすとか、時間を決めて1時間で切り上げるような工夫が必要。

(座長)

J委員は、町内会の中で数少ない女性の会長で、市との懇談会でもゴミ問題が出た時に色々質問があったが、J委員の女性の目線でゴミの出し方とか、それに対する苦勞とか、そういうのは男性の町会長でも意外と分からない人が多いが、女性の町会長は、細やかなところまで質問をされている方が多かった。色々な場面で女性だから、男性だからということではないが、やはり多くの男性、女性、若い方の意見が反映されるような町内会を目指していかなければならない。

(K委員)

色々な目線の方がいて、生活者の目線を持っているのは、今は女性が多いから、ということだと思うが、やはり女性は忙しいですね。家庭では料理作るとか、家事とか任されてしまうので、女性に暇だから入ってとは言わないでほしい。

今、J委員が言われたように、仕事をしていても出来るような工夫があれば入りやすいと思う。

(L委員)

避難行動を促しても拒否する高齢者がいる話だが、2018年に岡山県倉敷市で起きた水害事故が正にその通りで、自治会の防災会があって、民生委員がいて、要支援者の名簿も持っていて、電話をかけたり直接行った人もいるらしいが、みんな子供が来るまで待ってるとか、電話をかけても出てこれないとか、結局そういう事態が起きて、70数名の方が亡くなられて、今も行方不明の方がいると思うが、何故そうなったかという、自主防災会を作っても形骸化してるというか、普段からほとんど何もしていなかったという反省に立っている。

ですからうちの町内会では、要支援者については、誰に来てほしいかということを知って、近所の人の力を借りてみんな紐付けしている。先ほどのI委員の方から、子供の言うことは聞くということもあったが、近所で気心の知れた人の言うことはよく聞いてくれる、という人を探すと、案外うまく対応して防災とかの話を受け入れてくれるのではないかな。

(M委員)

今、防災の組織を作っている中で、とにかく拒否する人が多いのでアンケートを取ろうということになって、今の話のように、近くの誰なら仲良くしているとか、連絡を取ってすぐに来てくれる子供がどこに住んでいて誰だとか、それを防災担当の人が把握していく。

うちの地区の民生委員は、皆さん安全なところに住まわれており、ちょっと危険な地域は崖の上の山に登ってというところで、車でも行けない地域なので、とりあえず近所の誰が連絡を取れるかというのをアンケートを取ろうとしている段階。

役員自体も、まだ防災に対する意識が少なかったり薄かったり、本当に駆け出しなので、これからいろいろと教えてほしい。

(N委員)

町内会は、個人で役員をやっているわけで、担い手の確保というときに、退職者への参加や意識啓発という言葉が出ていると思うが、我々企業の立場からすると、企業として町内会活動にもっと参加してもらような取り組み、企業自身が町内会のメンバーなんだよ、というようなことをやっていけば、一人が必ず出なくても、その会社で代わりにあなたが出てよ、というようなことをちゃんとできて、企業自身が社会貢献としてそういう活動に参加するんだ、というような意識啓発をもっとした方が、よりスムーズに担い手を確保できると思うので、あくまでも個人ということではなくて、組織だとか企業が町内会活動を担っていく一員でもあるんだよ、という考え方が必要なのかということをお聞きながら思った。

(座長)

今の話は本当に大事なことで、先ほどC委員が言っていた、企業が清掃活動で協力していただいております、これが町内会という形で係わってくれる機会があるとありがたいと思う。

例えば、高齢化率も50%を超えているような小さな町内会で、実際に作業をしたくても出来ないという時に、どこかの企業が来てくれるとか、そういう方法が取れば、町内会としてもありがたいことになってくる。例えばC委員のところ、市民活動団体にあそこの町内会を手伝ってくれないか、というような仕組みも出来れば、凄くいい形になっていく。

(C委員)

まち「ピカ」パートナーで草刈りとかゴミ拾いとかを町内会と一緒に活動されている企業もあり、社会貢献に関心のある、気持ちのある企業もいっぱいあると思うので、もしかしたらまち「ピカ」パートナーを通じて、町内会の話も出来るかもしれない。

(座長)

中学校の部活動の野球部やバレー部など、過去にそういうところで町内会を手伝ってもらっていることがあったりするので、そういうことを投げかけてみたところ、今後、部活動は先生が教えるのではなく、例えば外部の指導者が来て教えることになり、放課後のボランティアが難しくなるかもしれない、という話が出ており、なかなかコミュニケーションが取りづらい時代になってきていると感じているが、その中であっても、町内会や地域コミュニティというのは、やはり活性化していかなければならないと思っている。

全体としてよろしいようですね。基本方針は、今日の会議で了承となれば、このとおりに進む形になるのか。

(事務局)

本日の議論を踏まえ、概ねご了承いただいたということで、今後は、市内部で市長まで決裁を受けた後に正式に確定となる。確定したものは改めて皆様の方にお知らせさせていただくのでよろしくお願いしたい。

② 室蘭市町内会・自治会活性化推進会議の継続と今後の活動について

～事務局から資料に基づき説明～

(座長)

当初、推進会議の設置は1年間ということだったが、この基本方針が出来て、今後の取組みの推進のため、各団体の皆様には引き続き協力をお願いし、設置要項を改正して進めていくということなのでよろしくお願いします。